

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 1 区分

【発行日】令和 1 年 11 月 14 日 (2019.11.14)

【公表番号】特表 2017-507106 (P2017-507106A)

【公表日】平成 29 年 3 月 16 日 (2017.3.16)

【年通号数】公開・登録公報 2017-011

【出願番号】特願 2016-553412 (P2016-553412)

【国際特許分類】

C 0 3 C 10/12 (2006.01)

G 0 3 F 7/20 (2006.01)

G 0 3 F 1/60 (2012.01)

G 0 3 F 1/24 (2012.01)

【 F I 】

C 0 3 C 10/12

G 0 3 F 7/20 5 0 1

G 0 3 F 1/60

G 0 3 F 1/24

G 0 3 F 7/20 5 2 1

【誤訳訂正書】

【提出日】令和 1 年 10 月 3 日 (2019.10.3)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 4 2

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【 0 0 4 2 】

本発明の一態様は、大きな体積のガラスセラミック素子に関する。本発明の目的で、この用語は、少なくとも 5 0 0 k g、好ましくは少なくとも 1 t、より好ましくは少なくとも 2 t、本発明の一態様の場合に少なくとも 5 t の質量を有するか、又は長方形の形状の場合には、少なくとも 0 . 5 m、より好ましくは少なくとも 1 mの辺の長さ（幅及び／又は奥行き）及び少なくとも 5 0 mm、好ましくは 1 0 0 mm の厚さ（高さ）、又は円形の形状の場合には少なくとも 0 . 5 m、より好ましくは少なくとも 1 m、より好ましくは少なくとも 1 . 5 m の直径及び少なくとも 5 0 mm、好ましくは 1 0 0 mm の厚さ（高さ）を有するガラスセラミック素子を意味することが意図される。本発明の特別な態様の場合に、ガラスセラミック素子は、例えば、少なくとも 3 m 又は少なくとも 4 m 以上の直径及び 1 0 ~ 1 5 トンの質量を有する大きなガラスセラミック素子であってもよい。ガラスセラミック素子の最大サイズは、溶融タンクのサイズに依存する。しかしながら、直径 8 m 及び 4 0 ~ 6 0 トンの質量を有する大きなガラスセラミック素子をキャストリングすることも可能である。特に、本発明は、少なくとも 1 つの表面が、少なくとも 1 m²、好ましくは少なくとも 1 . 2 m²、より好ましくは少なくとも 1 . 4 m² の表面積を有することが好ましい長方形のガラスセラミック素子にも関する。